

決意表明

JAMヤナギヤ労働組合 花山 雄一

JAMは「ものづくり産業労働組合」として機械・金属産業の中小労組が多く集まり、多くの業種にたずさわる「産業別労働組合」であります。JAMは中小労組の代表に立ち「社会的公正労働基準を確立し、公正でゆとりある豊かな生活を保障できる社会」の構築を理念に、取り組んでおります。18歳で入社し勤続12年の一人前に立つ30歳では「24万円」、さらに中堅リーダーとなる35歳では「27万円」というように、私たちJAMでは、ものづくりで働くものは「その金額以下では働かせない」「これ以上でないダメ」というような水準を「JAM一人前ミニマム」と定めておりまして、この基準に則り、今春闘に臨みます。

JAMは2月24日を統一要求日として、コロナ禍の2年目の春闘がスタートしました。コロナの発生からみなさんも相当な思いをされたとお察し致します。JAMでは主に自動車・鉄鋼・工作機械・金属製品の業界に働く仲間たちが休業をして、多くのダメージを受けました。操業停止を余儀なくされ、残業や夜勤も一切なくなったことにより手取りが大きく減り、日々の生活に不安を抱えながら暮らしているという報告も受けました。今なお休業が続いている組織もございます。この危機的状況乗り越えるべく、雇用調整助成金の活用に取り組んだ他、住宅ローンや保険の見直しによって支出を抑え、可処分所得を上げる取り組みを、私たちとともに歩んでいる「ろうきん様」や「こくみん共済様」からお力添えを頂きながら行っております。やはり私たちの生活を組み立てる賃金は「残業や夜勤に依存しない賃金」が不可欠です。「非常時でもみんなの生活を担保出来る賃金」を今一度肝に銘じておくことが、強く考えさせられた次第です。

私たちが置かれている状況は厳しい状況ではありますが、やはり「要求」していかないと始まりません。苦しいのであれば「苦しい」と声を挙げなければ誰も解決してくれません。私たちの後ろには多くの組合員がいます。その組合員を守らなければなりません。4月からは同一労働同一賃金の原則が中小にも適用され、同じ職場で働く非正規の仲間も守らなければなりません。年間の所定労働時間が2000時間を超える組織も未だ多くあり、労働時間の短縮に向けた取り組みも不可欠です。そして多くのところでは65歳定年に向けた議論も積極的に始まろうとしています。多くの課題が山積していますが、要求と合わせてみんなで知恵を出し合い、残業抑制を図り、歩留まりを上げて生産性向上を図り、賃上げ原資創出に努めることも、私たちの義務と考えております。会社も「苦しい状況」があると思いますが、ならば「何が問題なのか」、「何が課題なのか」、労使のコミュニケーションによって改善に努めていくことが肝要です。私たちは労使対等であり、とにかく声を挙げ取り組んでいくことを誓います。

そして、JAMでは「価値を認めあう社会へ」というスローガンを掲げ、政策実現へ取り組んでおります。ものづくりの仲間たちの「優れた技術・技能でつくられた製品やサービスが、その価値にふさわしい価格で売買できる取引慣行の実現」は、企業の健全な発展と、ものづくりにたずさわる仲間の雇用と生活の安定・向上には欠かせない重要な課題だからです。すべての取引で

「付加価値が適正に評価され価格転嫁される社会」をJAMは求めています。ものづくりはサプライチェーンというように多くの仲間と繋がっております。お互いが仲間として考え、仲間として認めあうことが何より大切です。そうすることで社会全体の発展・底上げに大きく繋がります。是非、皆さまの組織からもご賛同を頂きますよう、お願い致します。

最後に、私たちJAMは「コロナに負けない!」「雇用と賃金と仲間を守る!」を申し上げ、連帯の決意表明とさせていただきます。ともにがんばりましょう!